

都市経営の理念

京都のまちづくりに一番大切なことは何？



わたしたち市民と市役所とが協力し合ってまちづくりを進めていくことだよ。

生活者を基点に、参加と協働で地域主権時代を切り拓く

- 地域主権時代の都市経営のあるべき姿は、国の権限と財源の基礎自治体への移譲にとどまることなく、自治体とその主人公たるべき市民が自治意識を共有し、実践する、参加と協働による市政運営とまちづくりを実現することである。
- 財政問題や少子高齢化、地球環境問題など深刻な課題が多くあるが、わたしたち京都市民は、ポジティブ（未来志向）な発想と行動で乗り越え、長年にわたり育んできた美意識や得意技を生かして、生活者を基点とした未来像を共有し、参加と協働で実現への道筋を見出し、共に汗を流して希望のもてる未来を切り拓く。

京都の未来像

京都の未来像って、10年後のまちの姿なの？



そのとおり！6つの未来像の実現をめざして、みんなで一緒にがんばろう！

地球環境にくらしが豊かに調和する

「環境共生と低炭素のまち・京都」

歴史・文化を創造的に活用し、継承する

「日本的心が感じられる国際都市・京都」

伝統と知恵を生かし、豊かな生活を支える

「環境と社会に貢献する産業を育てるまち・京都」

いのちとくらしを守り、安心・安全で幸福を感じできる

「支え合い自治が息づくまち・京都」

だれもがともに学び成長し、未来を担う若者が育つ

「学びのまち・京都」

人間らしくいきいきと働き、家庭・地域で心豊かに生活できる

「真のワーク・ライフ・バランスを実現するまち・京都」

地球環境にくらしが豊かに調和する 「環境共生と低炭素*のまち・京都」

わたしたち京都市民は、将来世代のいのちと安全を守るためにも、長期的(2050年まで)な未来を視野に入れ、その最初の10年間において、ものづくりの伝統に裏打ちされた匠のわざや最先端の技術を用いた環境産業が新たな雇用を生み、公共交通を優先するまちづくりがくらしやすさや訪れやすさを高め、三山の森とまちなかの緑がすべての市民に潤いと癒しを与えるといった、低炭素のまちづくりにひとびとのくらしの豊かさが調和したまちをめざす。

京都人が長い歴史のなかで培ってきた価値観である「もつたいない」、「しまつ」、「おかげさま」の精神を尊び共有することで、交通・都市づくり、ものづくり、なりわい、すまいとくらしといったあらゆる場において、環境共生と低炭素のまちづくりを市民ぐるみで実践し、国内外における地球温暖化対策を牽引する。



* 低炭素：温室効果ガスの排出が少ないことを指す。

歴史・文化を創造的に活用し、継承する 「日本の心が感じられる国際都市・京都」



わたしたち京都市民は、千年の悠久の歴史に培われた豊かな文化と奥深い伝統に彩られたまち・京都に対する一層の愛着と誇りをもち、「住んでよし訪ねてよし」の国際文化観光都市であり続けることをめざす。

先人たちが、あるときは頑なに守り、あるときは進取の気性で培ってきた、幾重にも積み重ねられた歴史と文化、美しい自然や景観、伝統が息づくくらし方など、有形無形の日本の心ともいべき京都の特性を創造的に活用し、次世代への継承に努める。さらに、こうした京都の魅力を平和とともに広く世界に発信し、文化的な交流を深める。

「千年後もいきいきと活躍しているまち」に

基本計画審議会において、私は、京都の1300年の歴史を踏まえつつ、今後千年先を見据えていくという観点で議論を進めてきました。市民の皆様には、是非、京都が「千年後もいきいきと活躍しているまち」となるよう、様々な立場でこのプランの実現に御協力をいただきたいと思います。

参加と協働を合言葉にして、市民が力を合わせてこのプランを進めしていく10年になれば、と考えています。



尾池利夫さん
(財団法人国際都市研究所所長、
京都府立大学名誉教授)
京都都市基本計画審議会会長

* 共汗メッセージ：本プランの策定に携わった方のプランや策定過程の取組に込めた思い

伝統と知恵を生かし、豊かな生活を支える 「環境と社会に貢献する産業を育てるまち・京都」

わたしたち京都市民は、環境問題をはじめ現代社会が抱える課題から需要を掘り起こし、これまで培ってきた価値観や知恵などを生かして、世界市場をも視野に入れた新たな産業を育成することで地場産業や農林業も活性化し、雇用を創出するとともに課題解決に貢献する好循環をつくり出す。これにより、豊かな生活や社会を支える経済基盤が確立したまちをめざす。

低炭素社会を先導する産業、超高齢社会に対応した健康・福祉産業などを対象に、京都の強みである起業家精神、ものづくりの技術や知恵などが最大限発揮され、広く国内外から人材や資金などを呼び込むしくみづくりなどを推進する。



だれもがともに学び成長し、未来を担う若者が育つ 「学びのまち・京都」



わたしたち京都市民は、ともに学び成長する喜びを分かち合いながら、京都、日本、世界の未来を担う若者を、みんなで育て合う、学びのまちをめざす。

「大学のまち京都」の都市特性や文化芸術、宗教、ものづくり(匠のわざから先端技術まで)などほんものに数多く触れることができる強みを生かし、生涯を通じてだれにも多様な学びの機会があり、その成果を社会に還元できる環境を創出する。また、社会全体で子どもを健やかで心豊かに育むとともに、若者が希望を抱いて学ぶことができ、地域の担い手や、経済、学術、文化芸術など多様な分野での国際的なリーダーを輩出する取組を推進する。



立石義雄さん
(京都府立大学准教授)
立石義雄
さん
京都府立大学准教授
立石義雄
さん
京都府立大学准教授

オール京都で未来の京都づくりを

地域の未来を考えるときには、地域に住むひと、働くひと、学ぶひとの新たなニーズを基点に「ありたい姿(ビジョン)」を描き、共有することが大切です。このプランが、行政だけでなく、産業界、文化・学術、NPO、住民等と共に創り上げられたことは、京都のポテンシャルを最大限に発揮することにつながるものと大いに期待しています。

オール京都でビジョンを共有・連携して、未来の京都づくりに取り組んで参りましょう。

いのちとくらしを守り、安心・安全で幸福を実感できる 「支え合い自治が息づくまち・京都」

わたしたち京都市民は、子どもからお年寄りまで、すべてのひとびとのいのちとくらしが守られ、互いに尊厳を認め合い、支え合うとともに、だれにも居場所があり、ひとのつながりが豊かで、心安らかに幸福を実感できるまちをめざす。

子育て、教育、福祉、防災、防犯、まちづくりなど多様な面でこれまで以上に参加と協働を進め、セーフティーネット（安全網）をしっかりと守る「公助」と自律した市民による「自助」とともに、京都の誇る地域コミュニティの「共助」の力を一層高める取組を推進する。



人間らしくいきいきと働き、家庭・地域で心豊かに生活できる 「真のワーク・ライフ・バランスを実現するまち・京都」



わたしたち京都市民は、人間らしくいきいきと働き、豊かな家庭生活を築き、地域社会に積極的に参加・貢献するとともに、健康で文化的に学び憩うときと空間を確保することを理想とする真のワーク・ライフ・バランスが実現できる、ひとびとをひきつけるまちをめざす。

企業・事業者や行政が率先して安定的かつ働きがいのある労働環境や、子育て、介護など安心なくらしを支えるしくみを整えるとともに、社会貢献の場や機会の充実を図る取組を推進する。また、市民ひとりひとりが人生の段階に応じて、就労による経済的な自立、実りある家庭生活や友人等との交わり、自己啓発、地域活動への参加等が行えるように努める。

子どもたちが
描く
京都の未来



どうぶついっぱい
うれしいな！

保育園・幼稚園児、小学生、中学生を対象に京都の未来を描く絵画などを募集したところ、2,556点もの応募がありました。ここではその一部を御紹介致します。

保育園・幼稚園の部 市長賞 植村 まささん

いつまでも、きょうどで、
「平和のしるし大文字」
がつづいてほしいです！



小学校1、2年生の部
市長賞 中間 さやかさん